

日本共産党杉並区議会議員

週刊

こんにちは 山田耕平 です

2011.5.19 No.23

このニュースへのご感想
ご意見をお寄せください!

杉並区善福寺 2-2-1 1
TEL 090-9973-0941
ホームページ
<http://www.jcp-yamada.jp/>



新人議員3名 被災地救援へ

四月十日（火）～十二日（木）、宮城県石巻市・女川町に被災地救援に入りました。杉並区議団から、3名の新人議員と青年学生後援会のメンバーが参加しました。

被災地は深刻な状況

津波の被害が最も多く出た地域では、町全体が跡形もなく、瓦礫の山となっていました。ヘドロや化学薬品、魚の腐敗臭が入り混じった異臭が漂い、粉塵の舞う大変な環境でした。

深刻な被害地域では、倒壊の危険のある建物が多く、重機のみでしか作業が出来ない状態です。一般人は近付けない状況でした。



家が海に浮かんでいる（右）
津波の跡は瓦礫の山（下）



救援募金・野菜を届けました!

現地では「野菜」が足りないということなので、区内を駆け回り、大量の野菜を手に入れ、被災地に届けました。救援センターでは、野菜や日用品を仕分け、移動手段が無いお年寄り家庭などに手分けして、届けていました。



大量の野菜を仕分けて、各家庭に届けます（上）
被災地救援センターにて（右）



救援・復興は政治の責任で 地方自治体の役割も問われる

被災地救援・復興には、国を挙げて取り組むことが重要です。

また、政治の責任も鋭く問われています。地方自治体が住民の命と暮らしを守るために、あらゆる努力を尽くすことが必要です。今回の被災地救援での経験を生かし、杉並区でも災害に強い街づくりを実現するために全力で取り組みます。

避難生活を送る住民から要望の聞き取り



現地では、地元の日本共産党町議と連携し、体育館などで避難生活を送る被災地住民のみなさんと直接対話し、要望を聞いて回りました。

仮設住宅の増設が緊急課題 住民の要望を行政へ

多くの方が、避難生活の長期化に疲れ果て、体力的にも精神的にも、限界に達しています。「何よりも仮設住宅に入りたい」という声が、対話をした全ての方から寄せられました。

地元の漁業関係者からは「船も流され、漁も出来ない。若い衆に仕事を確保してやってくれ」などの声が寄せられました。仕事や生活の糧を失った方への雇用の確保も急務です。

また、「住民の声が行政に伝わっていない」という

声も多数あり、現地の日本共産党が行政との架け橋の役割を果たしている状況です。

自身も家を流され避難生活を送りながら、それでも住民のために駆け回る日本共産党町議の姿に議員の役割と責任を痛感しました。

写真(上) 荒れ果てた漁港で片付けをする漁師さんと対話

待機児ゼロに認可保育所の増設を申し入れ



杉並区の4月時点での認可保育所の待機児は1258名で、認証保育所や区保育室など、認可外施設にも入所出来なかった保育待機児は71名となったことが明らかになりました。深刻な事態です。

五月十七日、日本共産党杉並区議団は、田中区长に対し、認可保育所の増設と、保育待機児ゼロをめざすよう申し入れを行いました。

申し入れに対し、田中区长は、「認可保育所の必要性は理解している。土地の確保などの検討を始めています」と回答。認可保育所増設に前向きな姿勢を示しました。今後も認可保育所増設に全力を挙げます。

今週の一こま

「おんぶ」は私の仕事

天気が良い日が続いているので、子どもを連れて外出しています。もっぱら「おんぶ」は私の役割です。

プロレス研究会で人を持ち上げるのには慣れているので、まだ軽々ですが、子どもも10キロ近くとなり、日に日に重くなっています。「子連れ狼」ならぬ、「子連れ議員」ですね…。見かけたら、声をかけてください。



「おんぶ」するとすぐに寝ます